

技能向上を目指す現場第一

新日鉄グループ 第2回 技能トライアスロン大会を開催



2006年11月21日、君津製鉄所において新日鉄グループ第2回技能トライアスロン大会が開催された。新日鉄グループの「ものづくり活性化」を目的に、昨年度八幡製鉄所で行われた第1回大会に引き続く第2回目の開催で、機械整備の三大技能である「工事」「仕上げ」「ガス・電溶」の3部門計8種目の基礎技能を、一人ひとりが制限時間内ですべてこなす、過酷かつ真剣勝負の鍛錬競技会となった。

君津製鉄所 機械総合安全センターに勢ぞろいした大会関係者

「製造実力向上活動」の一環として本大会を開催

新日鉄グループの「製造実力向上活動」、中でも「ものづくり活性化」施策の一環として、昨年度、八幡製鉄所で第1回技能トライアスロン大会が行われた。急激な世代交代の中での技能伝承や、人材育成活動の活性化と当社グループの意識改革を目的として実施され、第2回目は、君津製鉄所での開催となった。

鉄鋼業は装置産業であり、その設備への製造ノウハウの織り込みや整備技能が製造の根幹を担っている。このため、技能レベルの向上、とりわけ若手整備技能者の早期育成が必須の課題だ。ところが、多くの職場では日ごろ互いに刺激し合い、切磋琢磨することが難しい環境にあり、職場・箇所を越えた競技の場を通じて整備技能の向上マインドを

高めていくことが必要となった。

こうして技能トライアスロン大会は昨年度よりスタートしたが、出場した若手選手の技能向上に加えて、各所の技や流儀を披露することを通じて競技を企画した係長・主任層にとっても育成マインドを刺激する良い機会となり、また当社の特性を生かした“トップランナー方式”(各製鉄所の優れた点を相互に取り入れる)の実践の場ともなった。

進化した大会を目指して

第1回大会終了後、その反省と第2回大会の企画に関する検討が開始された。引き続き“一専多能”(一つの専門技能に加えて基本技能を幅広く身につける)を育成コンセプトとすることを確認し、競技内容や運営方法についても白熱した議論が行われた。

この結果、第2回大会の競技種目は、実際の現場作業に

種目紹介

工事部門



質量目測・ワイヤー選定
鋼材4個の質量を目測し、異なる径のワイヤーロープの中から最適なものを選定する。



玉掛け
補助員に的確な指示をしながら安全でバランスのとれた玉掛けを行う。



足場架設
鋼管・直交クランプ・足場板・番線を使用し、安全で堅固な足場を架設する。



線の若手精鋭たち

より近いものとし、各種目の難易度も前回大会に比べ全般的にやや高いものに設定された（計8種目）

また大会当日の競技運営や採点評価は、全社の代表係長・主任で構成される“競技運営&審査委員会”によって行われた。大会2カ月前には競技の詳細が全社に公表され、各所では練習の時間や道具を工面しながら準備が行われた。規模の大きな製鉄所では協会会社を含めた所内選考会が行われ、中小規模の製鉄所では近隣の製鉄所のアドバイスを受けるなど、大会開催前から各層での交流を深め、互いに刺激し合う機会となった。

さらに本大会当日の運営方法にも工夫が加えられた。各選手の競技進行状況や各種目の競技場所の空き状況がリアルタイムで表示される“進捗管理ボード”（右写真）が準備され、応援に訪れた関係者にも大変好評であった。

また大会終了後には、競技運営・審査委員会から選手一人ひとりの競技内容について、その採点結果が明示され、今後伸ばすべき点や、より一層の努力が必要な点が「個人成績及び競技フォローアップ表」として選手本人に通知・

指導されることとなった。

競技の方法は、事前に定めた採点基準によって客観的に得点を算出し、順位を確定する真剣勝負であり、成績優秀者は社長から直接表彰されることとした。これは、ものづくりの原点が現場にあるという経営者のメッセージであり、若手を含めた現場第一線のモチベーション向上に大きな役割を果たしている。

このように第2回大会は前回から確実にレベルアップした大会となったが、次回大会においても、全社を挙げて継続的に「ものづくり・現場力」を維持向上する技能伝承・人材育成の場として、より一層進化した大会運営が期待される。



進捗管理ボード

主催者挨拶より

より高い「技能」を目指して切磋琢磨していこう！

副社長 永広 和夫

皆さん、ご安全に！

現在、当社をはじめとする日本鉄鋼業が復活し、好業績を維持し続けている源は、まず、長年の技術が蓄積されている「設備」にあります。そして、もう一つは皆さん自身に蓄積される「技能」です。当社では、2003年より製造実力向上を目指して、計画保全や技能伝承を推進する全社的運動を展開していますが、この技能トライアスロンは設備技術力を高め、人材を育成する最良の場です。ぜひこの大会を通して、出場者一人ひとりが切磋琢磨し、周りから学んだことを自らの力として蓄え、新日鉄グループの技術的基盤をより強固なものにしてほしいと思います。

先日、君津製鉄所を見学した中国やインドの方々から、

「この設備でなぜ高生産性・高品質を実現できるのか」という質問を受けました。最新鋭である彼らの設備は、メンテナンスのノウハウが蓄積されていなければすぐに老朽化してしまいますが、この話を聞いて、鉄鋼業の基盤となる「設備」と「技能」を維持・向上させる原動力はやはりここにいる皆さん自身だという思いを強くしました。だからこそ新日鉄グループは世界鉄鋼業のトップランナーなのです。そしてこの高い設備技術力を今後とも維持・向上させるために、特に、20歳代の若手を中心とする出場者の皆さんには、ぜひ将来の日本鉄鋼業を支えていく気概を持ってほしいと思います。

本大会の準備にあたった君津製鉄所をはじめとする事務局に感謝し、出場者の方々が100%の力を出しきることを願って、激励の言葉とします。



ガス・電溶部門



完成品

ガス溶断、電気溶接
支給された材料からガス溶断で部品を切り出し、電気溶接で指定の形状・寸法通りに加工する。

仕上げ部門



芯出し
回転軸の芯合わせ精度を競う。



ボルト締付け
ハンマーを使用し、ボルトを適正トルクで締め付ける。



やすり作業
（Vブロック）
支給された材料を指定の寸法精度内に加工する。



測定
各種測定器具により、部品の外径、内径、深さを正確に測定し、寸法精度を判定する。